

沖縄県の麻しん対策について

～診断から検査の流れを中心に～

沖縄県福祉保健部医務課 結核感染症班 班長 系数公 098-866-2169

- 沖縄県はしか“0”プロジェクト委員会(H13)
 - － H11-H13の流行で乳幼児が9名死亡
 - － 小児医療、保健、行政、保育関係者等で構成
 - － はしか“0”キャンペーン週間の創設
- 麻しん全数把握実施事業(H15)
 - － 医師からの届け出～ウイルス診断の流れ
- 麻しん対応ガイドライン(H15)
 - － レベル0・1・2・3に分けて、対応を示す
 - － 流行時(レベル3)では、生後6～12ヶ月未満児への公費での接種について、市町村に働きかける

沖縄県麻しん発生全数把握実施要領(H15-)

関係機関の役割を記載

- 医療機関
 - － 疑い例を含め、診断した医師は直ちにFAXにて保健所に連絡する
 - － 検体採取マニュアルに基づいて、検体を確保する
- 保健所
 - － 検体を医療機関から受け取り、輸送する
 - － 患者や家族から情報収集し、追跡調査の準備を行う
- 沖縄県衛生環境研究所
 - － PCR検査を実施する
- 本庁(医務課)
 - － 情報を取りまとめて、関係機関へ還元する

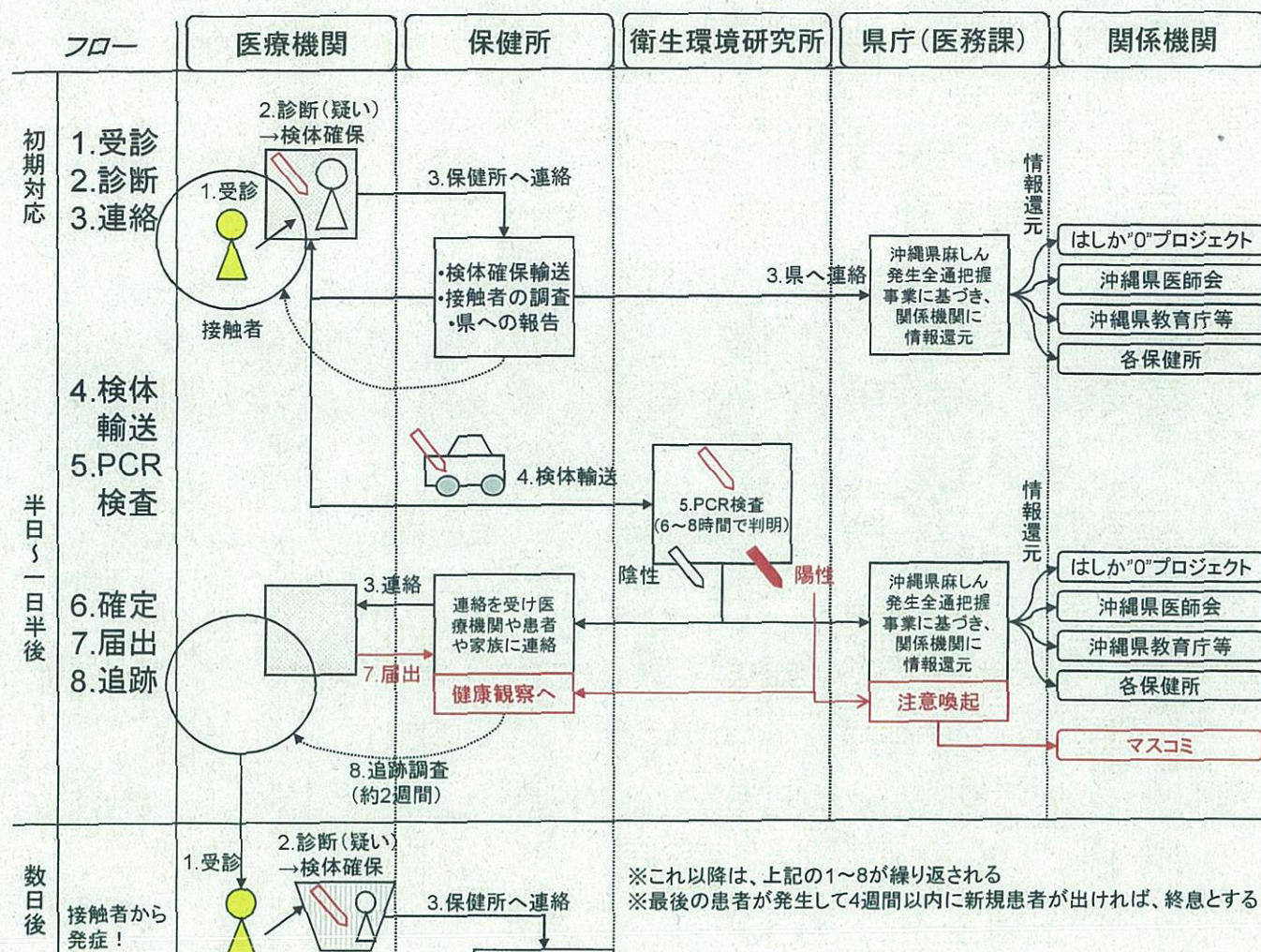
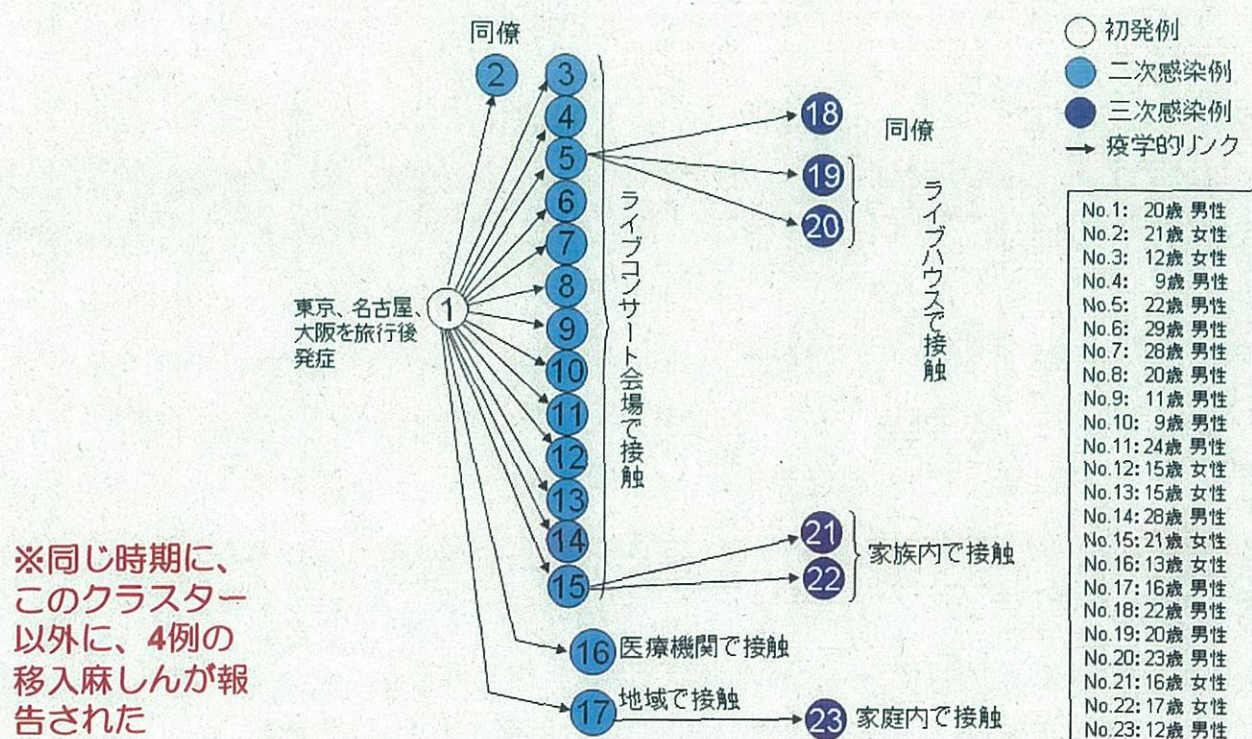


図2. ライブコンサートを中心とした集団感染における疫学調査に基づく症例間のリンク

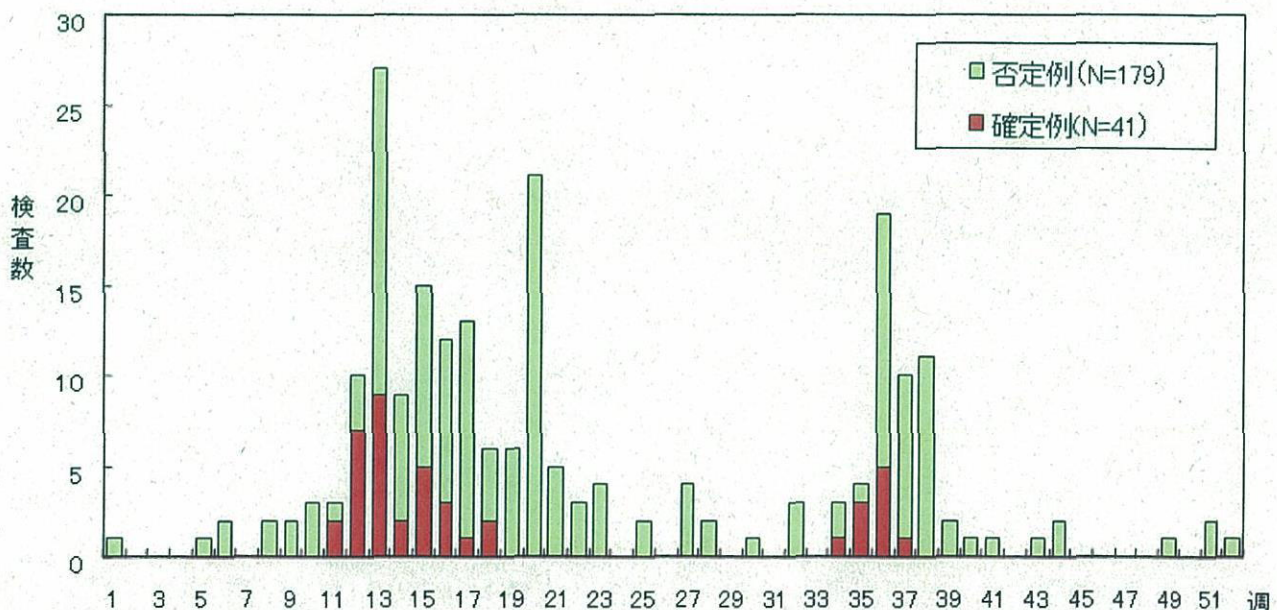


沖縄県の麻疹排除関連指標

参照:WHO西太平洋地域事務局(WPRO)における麻疹対策(Vol.28 p 261-262:2007年9月号)

- 確定麻疹症例数
 - － (年間確定例が100万人当たり1例以下、輸入例を除く)
 - － 確定例:22例(H19)→41例(H20)→5例(H21)と推移
- 集団免疫
 - － (麻疹に対する集団免疫が95%以上確保)
 - － いまだⅠ期～Ⅳ期とも95%には達していない
 - － Ⅰ期91.6% Ⅱ期87.0% Ⅲ期83.9% Ⅳ期74.8%
- サーベイランス
 - － (1年間に報告される麻疹疑い症例が人口10万当たり1以上であること等)
 - － 疑い例:132例(H19)→220例(H20)→60例(H21)と推移

図1. 2008年麻疹患者発生動向 ー沖縄県



※流行期には、疑い例の報告も増加する傾向

IASR
Infectious Agents Surveillance Report

2008年の麻疹発生状況ー沖縄県(IASR,Vol. 30 p. 34-36:2009年2月号)
<http://idsc.nih.gov.jp/iasr/30/348/dj3483.html>